

月にみがきて



更級小学校だより
No. 9 H26. 10. 22

縄文まつりに向けて

10月26日(日)に第22回さらしなの里縄文まつりが開催されます。子どもたちが次のように参加します。

【豊穰儀礼】

5年生を中心に、全校児童が参加します。

1年生…奉納者が通る花道の隊列を形作ります。

2年生…奉納品であるリョクトウクッキーを手渡します。

3年生…奉納者が通る花道の隊列を形作ります。

4年生…奉納者が通る花道の隊列を形作ります。

5年生…火おこしや聖火分配、奉納品手渡しなど、さまざまな活動に取り組みます。

6年生…鼓笛隊で演奏をし、奉納者が通る花道の隊列を形作ります。

【スタッフとしての各係の仕事】

5、6年生がスタッフとして次のコーナーの係で祭りの推進に関わります。

○キビもち ○キビ甘酒 ○焼き肉 ○縄文肉団子 ○縄文燻製
○炉 ○火おこし ○弓矢 ○縄文編物 ○変装・音

【ジャンベ演奏】

5、6年生の有志がジャンベを演奏して祭りを盛り上げます。

【芸能村発表】

3～6年生が発表をして、祭りを盛り上げます。

3年生…リコーダー、縄跳び、歌

4年生…劇、縄跳び、コント、ダンス

5年生…縄文太鼓

3～6年生…縄文の歌

【各コーナーへの参加】

「自分たちもコーナーを作って祭りを盛り上げたい」という思いでオリジナルコーナーを作ります。

5年生…勾玉(縄文人の石のアクセサリ)のプレゼント

6の1…おにぎりのプレゼント

10月15日(水)には、縄文まつりの村長の豊城 むらおさ 巖 いわお さんに来ていただき、縄文まつりに関わって次のようなお話をしていただきました。



縄文時代は、約1万年も続いた。自然を大切にして生きていた時代。とった食料をみんなで分けて食べていた。だから、みんな仲が良く、争いがなかった。年1回は自然に感謝するまつりをしていただけではないか。今の私たちもそうしようと思ってまつりを始めた。

さらしなの里歴史資料館のある場所は、縄文時代の集落があった場所で、円光房遺跡という。ここから土偶(土の人形)の一部が出た。その他に甕も出た。皮を張って太鼓にしたのではないか。

みなさんが精一杯取り組んでくれているので縄文まつりが楽しみです。

そして、21日(火)には、縄文まつりの役員の方に来ていただき、コーナーの係の仕事について打合せをしました。各係をどのように進めるのか、注意することは何かなど、細かいアドバイスをいただきました。

今年の縄文まつりの目標は「地域の皆さんと交流しながら、縄文時代の生活をおもいきり楽しもう！」です。地域の皆さんが作り続けてきた縄文まつりに、子どもたちが積極的に参加し、自分の役割を果たすとともに、地域の皆さんと一緒に地域の良さを感じ取って欲しいと思います。

当日は、保護者の皆様もご来場いただき、子どもたちの活躍する姿をご覧いただきたいと思います。よろしくお願いします。



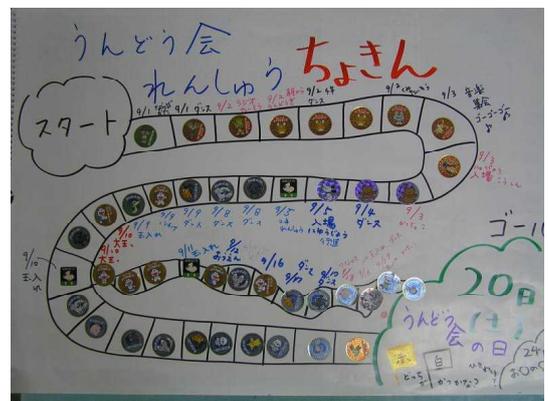
【コラム 特別支援教育って何?②】

第2回は、発達障がいがある、適切な支援が必要な子どもについてお話ししたいと思います。発達障がいといわれるものには、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥/多動性障がい)、高機能自閉症などがあります。発達障がいのある子どもには、次のような姿が見られることがあります。

- ・文章題になると面倒くさがるやらない。
- ・読んでいるうちに勝手な読み方をする。
- ・ノートいっぱい漢字練習をするのにも少しも点が取れない。
- ・漢字や計算は得意なのに、グループなどでの話し合いに参加しない。
- ・体育の日は登校をしぶる。
- ・何度注意しても宿題をやってこない。
- ・よけいなことを言って授業をじゃまする。
- ・話したばかりのことを質問してくる。
- ・いつも一番でないといふてくされる。
- ・気が利かない。言われたとおりにしかやらない。
- ・融通が利かない。頑固でわがまま。
- ・一人でぶつぶつ言っていることがある。

こうしたお子さんのできない理由を「性格」「やる気のなさ」「努力不足」「しつけ」に求めているのでしょうか。このような障がい正しく理解されず、適切な対応がないことで、学力不振や問題行動、不登校、いじめ等の問題を引き起こすケースも起きてきます。

このような学習や集団生活において、“学びにくさ”や“つまずき”を抱えている子を「困った子」とせず、「困っている子」として適切な支援をし、伸びる力を伸ばしていくのが、特別支援教育です。



【運動会に向けて練習を頑張った記録 4組東】